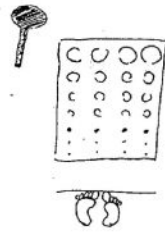




眼科常勤!

初代常勤医師は、
瀬戸川 章先生



4月1日付で眼科に常勤としておいていただくこととなりました。微力ではございますが隠岐の眼科医療向上のため邁進いたす所存でございますので、なにとぞよろしくお願いいたします。

ところで私はといえば、ご存じの方もいらっしやるかもしれません、ちょうど2年前より月に2回の割合でこの隠岐病院の外来を担当させていただいておりました。

当時より私自身驚いていたことは、多くの患者さんが長時間をかけて通院なさっていることでした。自動車社会と言われる現代ではありますが、視力が十二分でなければ免許証は交付されないことは容易に想像され、眼科にはそのように視力低下のため受診される方が大半であることは当然と言えは当然なのです。とすればそういった方が公共交通機関を足として通院されるのは当然の結果で、そのためバスを待ち、診察を待ち、1回の診察のために1日かかるなどと言う話を

〈発行〉
西郷町城北町
隠岐病院長



耳にすると、私自身の無力さを嘆くばかりありませんでした。

また白内障の進行例が比較的多く、そういう方々の大半が様々な理由のため年1・2度位しか通院できないということそして手術のため米子や松江まで行くことが難しいということ、誰を責めるわけにもいきません。白内障手術に関して言えば比較的安定した結果が得られるのが通説となっていて、現在の、そのような方が暗闇でただジッとしているのを想像したとき、私は本当は医者でないのでは?などと考えてみたりもします。

しかしながら、私自信にできることは限りがあり、全てのことを滞りなく一人で解決してゆけるはずもありません。病院のスタッフの皆さん、看護婦さんをはじめ様々な方々のご協力のもと、できることから一歩ずつ解決していきたく願って考えております。なにとぞよろしくお願いたします。

眼科医長 瀬戸川 章

山根由夫
またぐ
産婦人科開設
- 島前診療所



平成9年4月より、多くの皆様の努力により島前診療所に産婦人科が開設されることになりました。今までは月1回の「妊婦クリニック」が行われていたが、月2回完全な「妊婦検診」を行い、同じ日に今回初めて「婦人科」の外来診療をスタートいたします。

隠岐はひとつ、島前・島後において、都市部に負けない産科・婦人科の医療を行い、豊かな自然の中で、安心して、出産を含む女性の生活を守る。これが私の目標であり、実現しようとしていることです。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

「子宮ガンは防げる・なくせる」「更年期の過ごし方」「元氣な赤ちゃんを生むために」など、各種講演会を行っております。ご希望があれば隠岐島内どこでも講演いたしますのでご一報ください。

産婦人科部長 山根由夫

職場紹介

「産婦人科外来」

産婦人科外来は、妊婦・出産はもとより、一生を通して女性の健康を守るためにあります。平成八年十月に赴任された山根由夫先生は、ガンが専門で島根医科大学や県立中央病院時代にも、たくさんの方々の患者さんを治療してこられました。明るくて話し上手な先生と共に、私たちも、「忙しくても笑顔で明るく」をモットーに張り切っています。気になることも一人で悩まないで、何でも気楽に相談してください。

三月三日、ひな祭の日に、当院にて元氣な双子の赤ちゃんが誕生しました。とても可愛い女の子ですよ。私たちは、多くの赤ちゃんが元氣に生まれ、健康に育っていきけるよう応援したいと思っています。

「家族のなかで安心して出産をしてみませんか?」
ご主人の立会いをはじめ、希望があれば家族に見守られながら分娩することも可能です。昔ながらの家庭での分娩のように、おばあちゃんや上の子供さんにも一緒にいてほしいと思っっている方、遠慮なく申し出てください。



又、毎月第一、第三水曜日の午後、母親教室を行っています。栄養相談や医師の講話、呼吸法の練習など、楽な出産ができるよう支援する教室です。ご夫婦で来てね!



どげして病院まで来ちよつかの？

図2. 病院より帰宅時の交通手段

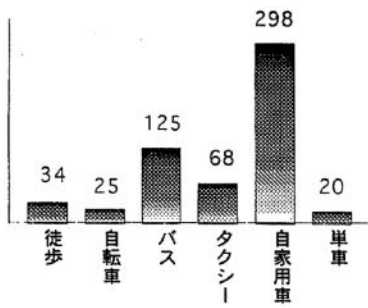


図1. 来院時の交通手段

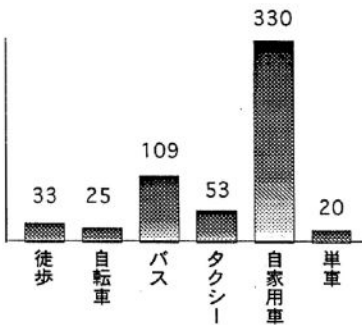
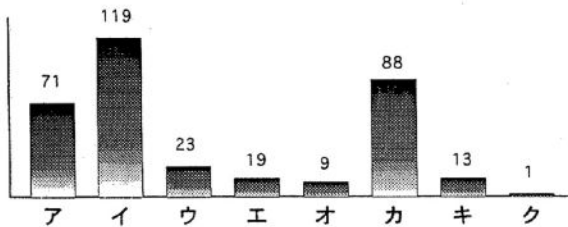


図3. バスを使用しない理由



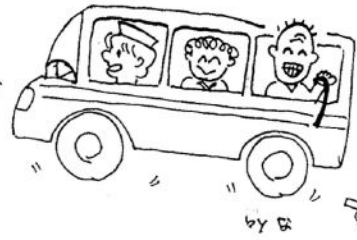
- ア：停留所が自宅の近くにない
- イ：通院するのに適当な便がない
- ウ：バスの料金が安い
- エ：バスに乗り降りすることができない
- オ：バスの利用方法が良く分からない
- カ：他に通院手段がある（自家用車など）
- キ：近いから
- ク：その他



1、アンケート結果

昨年末、外来通院患者さんを対象に交通手段外来アンケート（計五七〇名）を実施しました。その結果およびそれに対する隠岐病院の取り組みについて経過報告いたします。

外来サービス向上のためのプロジェクトチームから、交通手段外来アンケートの結果報告



2、その他の意見（原文のまま抜粋）

- ・バスに乗り降りするのに段々が高くて上れなかったり降りれなかったりする。（港町）
- ・受付時刻とバスの時刻は全くあいません。こちらの方が問題ですね。足や手が不自由だったり、どこかの痛みが強いとき等に安心して乗れる構造、サービスがあると良いと思います。（原田）
- ・お年寄り専門の送迎バスを週に何回かサービスで運行させてほしい。（岬町）
- ・隠岐病院行きまたは経由のバスを増便してほしい。（西町）
- ・病気の時はバスがないと非常に不便。以前は車を運転していたためよけいに感じます。（下西）
- ・朝の受付時間にまにあうバスがないのでしかたなくタクシーや自家用車を知人に頼んでいる。帰りはなるべくバスを利用するようにしている。（東町）
- ・手にけがをしたため、しばらくの間タクシーを利用しました。帰りにバスを利用しようと思いましたが会計等に時間がかかり乗り遅れてしまいました。バスを普段利用されるお年寄りの気持ちがよく分かりました。バスに乗る方は優先的に会計などをされてはいいかでしょう。那久、隠岐病院まではバス利用は大変です。ましてタクシー利用は往復で二二〇〇〇円あまりです。（那久）
- ・玄関口に病院車があり、通院駐車場のじやまになります。（加茂）
- ・ほとんど毎日のように何人かが通院していますので通院バスでもほしいです。（箕浦）

- ・各地区毎にバスが回ってくる曜日を決めるとかして、まとめてその日に来院できるような方法ができないものかと思えます。自家用車でも家の者が都合が悪くときもあるので、その日は受診をやめてしまします。そんなことができるかといわれるかも知れませんが、病人にとつては切実な問題です。そのため意見交換会などを開いて下さってもよろしいです。（加茂）
- ・バスが自宅の近くまで来てほしい。（箕浦）
- ・自家用車を利用した方が、時間を気にしなくて通院できる。（不詳）
- ・体が不自由なため、バスに乗り降りすることができない。（港町）
- ・朝受診した後、家族が迎えに来るまで夕方まで病院で待つている。（大久）

3、隠岐病院の取り組み

隠岐病院では、このアンケート結果をもとに、各町村の代表の方と昨年一月に話し合いの場を持ちました。その結果、”町村としては、患者さんの送迎バスを運行してほしいが、そのために予算を組むことはできない”との回答でした。送迎バスの運行には、多額の費用がかかり、町村の協力なしでは運行できません。そこで、隠岐病院独自で患者さんの帰りの便のみ無料で運行する、という提案を行い、現在町村組合の方で検討していただいております。この結果は近日中に皆様にお知らせしたいと思います。